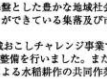
岩首集落　北陸農政局長賞を受賞!!

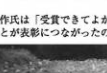
10月8日(金)、岩首集落が、北陸農政局より豊かなむらづくり優良事例として北陸農政局長賞を受賞しました。

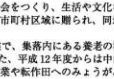
この賞は、農山漁村のうち農林漁業を基盤とした豊かな地域社会をつくり、生活や文化などを含む幅広い地域活動を展開する総合的なむらづくりができている集落及び市町村区域に贈られ、同地区は新潟県を代表して推薦され、受賞しました。

同集落では、平成10年度から岡津市地域おこしチャレンジ事業で、集落内にある桑老の滝周辺の整備や農道へのアジサイ、つつじ植栽などの景観整備を行いました。また、平成12年度からは中山間地直接支払い制度を契機に、岩首農用機械協同組合による水稲耕作の共同作業や転作田へのみょうがが、花なすの栽培などを実施してきました。

岩首集落村づくり委員会長の本間仁作氏は「受賞できたのは、辺地の小さな集落が、共同で助け合っていることが表彰につながったのではないかと思う」と話しておられました。


▲農道整備作業


▲花はす栽培作業


▲農道へのアジサイ・つつじ植栽

善意の寄付ありがとうございました

このたび、佐渡出身で、新潟県在住のゴルフ愛好者でつくる「カンゾウの会」会員30人の皆さんから、「トキの野生復帰に役立ててほしい」と、10万円の寄付をいただきました。ご厚志に沿うよう、有効に活用させていただきます。

本当にありがとうございました。

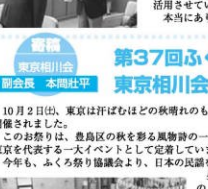
寄稿　東京相川会　副会長　本間壮平

第37回ふくろ祭りで東京相川会の「佐渡おけさ」がパレード

10月2日(土)、東京は芦ぼもはどの秋晴れのもとに、池袋西口にて豊島区民祭り・第37回ふくろ祭りが開催されました。

このお祭りは、豊島区の秋を彩る風物詩の一つとして、「文化の風薫るまち豊島」を発信地とし、今や東京を代表する一大イベントとして定着しています。

今年も、ふくろ祭り協議会より、日本の民謡を代表して「佐渡おけさ」がエントリーされました。



昼下がりの駅前に大勢の観客が見入る中で、特設ステージの上では「若波会」の地方による演舞が行われ、駅前大通りでは、東京相川会が主体となり「若波会」「新潟県人会民謡踊賛会」「潮会」「なぎさ会」「はまなす会」などの踊り手が、浪速部隊として60人の大パレードを練り広げました。

哀調帯びた「佐渡おけさ」のメロディーのもとに、日ごろから練成で鍛えている一糸乱れぬ優雅な踊りに、沿道の観客は足を止め盛大な拍手と歓声が上がりました。

そして、4時過ぎから西口公園で広場に陣取っている観客の周りを取り囲んでの大きな「佐渡おけさ」の輪踊りが身近に披露され、万雷の拍手が沸き起こり好評でありました。

佐渡金銀山 未来に残そう 世界遺産

金銀山よもやまばなし（2）

大立（おたち）竪坑（たてこう）

佐渡金銀山における近代化施設の建設は明治2年（1869）佐渡奉行所の官営が決定し、外国人技術者による近代化技術の移植が進められ、明治8年（1875）に大立竪坑を開削、遠敷および湖法所を新開することにより始まり、大立竪坑は明治10年（1877）に深さ550尺（1652メートル）まで完成しました。佐渡鉱山における最初の竪坑で、国内の金属鉱山においても最初の竪坑とされています。湧川上流左沢の北望に位置し、標高119メートルの地域おこしチャレンジ事業で、集落内にある桑老の滝周辺の整備や農道へのアジサイ、つつじ植栽などの景観整備を行いました。また、平成12年度からは中山間地直接支払い制度を契機に、岩首農用機械協同組合による水稲耕作の共同作業や転作田へのみょうが、花なすの栽培などを実施してきました。

岩首集落村づくり委員会長の本間仁作氏は「受賞できたのは、辺地の小さな集落が、共同で助け合っていることが表彰につながったのではないかと思う」と話しておられました。

▲農道整備作業

▲花はす栽培作業

▲農道へのアジサイ・つつじ植栽

善意の寄付ありがとうございました

このたび、佐渡出身で、新潟県在住のゴルフ愛好者でつくる「カンゾウの会」会員30人の皆さんから、「トキの野生復帰に役立ててほしい」と、10万円の寄付をいただきました。ご厚志に沿うよう、有効に活用させていただきます。

本当にありがとうございました。

寄稿　東京相川会　副会長　本間壮平

第37回ふくろ祭りで東京相川会の「佐渡おけさ」がパレード

10月2日(土)、東京は芦ぼもはどの秋晴れのもとに、池袋西口にて豊島区民祭り・第37回ふくろ祭りが開催されました。

このお祭りは、豊島区の秋を彩る風物詩の一つとして、「文化の風薫るまち豊島」を発信地とし、今や東京を代表する一大イベントとして定着しています。

今年も、ふくろ祭り協議会より、日本の民謡を代表して「佐渡おけさ」がエントリーされました。

昼下がりの駅前に大勢の観客が見入る中で、特設ステージの上では「若波会」の地方による演舞が行われ、駅前大通りでは、東京相川会が主体となり「若波会」「新潟県人会民謡踊賛会」「潮会」「なぎさ会」「はまなす会」などの踊り手が、浪速部隊として60人の大パレードを練り広げました。

哀調帯びた「佐渡おけさ」のメロディーのもとに、日ごろから練成で鍛えている一糸乱れぬ優雅な踊りに、沿道の観客は足を止め盛大な拍手と歓声が上がりました。

そして、4時過ぎから西口公園で広場に陣取っている観客の周りを取り囲んでの大きな「佐渡おけさ」の輪踊りが身近に披露され、万雷の拍手が沸き起こり好評でありました。

佐渡金銀山における近代化施設の建設は明治2年（1869）佐渡奉行所の官営が決定し、外国人技術者による近代化技術の移植が進められ、明治8年（1875）に大立竪坑を開削、遠敷および湖法所を新開することにより始まり、大立竪坑は明治10年（1877）に深さ550尺（1652メートル）まで完成しました。佐渡鉱山における最初の竪坑で、国内の金属鉱山においても最初の竪坑とされています。湧川上流左沢の北望に位置し、標高119メートル（65メートル）ごとに設置した坑道を持たせます。その後の掘削深さは1010尺（3066メートル）になって、大立竪坑は半流元の休山まで使用されており、112年間にわたって鉱石の採掘を行っていたことになります。

大立は古字義によると竪坑の槽の[4]ほかに飯櫃の建造物があり、史料には「明治18年（1885）採鉱場大竪坑鬼蜘場火災、機械場役局小倉など焼失、落炭、石炭貯蔵所鍛冶小倉など焼失、落炭、石炭貯蔵所鍛冶小倉など焼失、落炭、工。」とあることからも、竪坑上屋も再建する施設があったと考えられますが、現在は大立竪坑の坑道とも槽が残るのみとなっています。

大立竪坑の槽は、下部を鋼製別鋼形鋼頭つなぎの軸組に鋼製鋼鋼鋼による外壁を設けた構造とし、上層を山形鋼と平鋼のリベット接合による鉄骨トラス構造とし、各層には二重たすき掛けの山形鋼による斜材を設けてあります。最上部は鋼梁を用いた底組みを設け屋上テラスとし、手摺には三菱の社章を彫り付けています。槽の2層目及び3層目の高さの山形壁面に矩形の抗口あり、また、竪坑槽構の「大立揚揚室」と記された大型ブロックづくりの入口室に入れて大型ブロックづくりの入口室に入れて大型日立製作所（東京）製の揚揚機にあります。銘板によると「揚揚荷重3030kg、揚揚速度200メートル／分、電動機75HP、鋼索直径24ミリメートル、長さ3021、昭和14年」製品番号531821、昭和14年」とあります。その横に、「INGERSOLL-RRND CO.NEW YORK INPERIAL TYPE 10」と銘まれた銘板が付く機械が置かれています。その他、安易圧機械、コンプレッサー（石川島播重工業㈱製　製造年月1968・9）、8日エアクリーナー（石川島播重工業㈱製　製造年和43年8月、大立竪坑ケーシング修繕完成祭に際して、大立竪坑ケーシング修繕完成祭に際して、大立竪坑ケーシング修繕完成祭に際して